

中山間地域における 「在宅医療連携拠点事業」の取り組み



社会福祉法人 天竜厚生会

社会福祉法人 天竜厚生会

昭和25年現在本部地において法人化をはかり、以来60年間にわたり、静岡県内、西部、中部、東部地域において各地域のニーズに応じた事業を展開している。
。障がい者、高齢者、子育て支援、医療と複合的なサービス事業を行っている。

【医療関係部門】

○天竜厚生会診療所（在宅療養支援診療所）

標榜科目 内科、歯科を中心として12科目

一般病床 19床

○天竜厚生会第二診療所

標榜科目 内科、精神科

医療療養病床 12床

一般病床 6床

○龍山診療所(浜松市の運営委託事業)

標榜科目 内科、外科、小児科

在宅医療を実施するうえで必要な訪問看護ステーションを併設している。

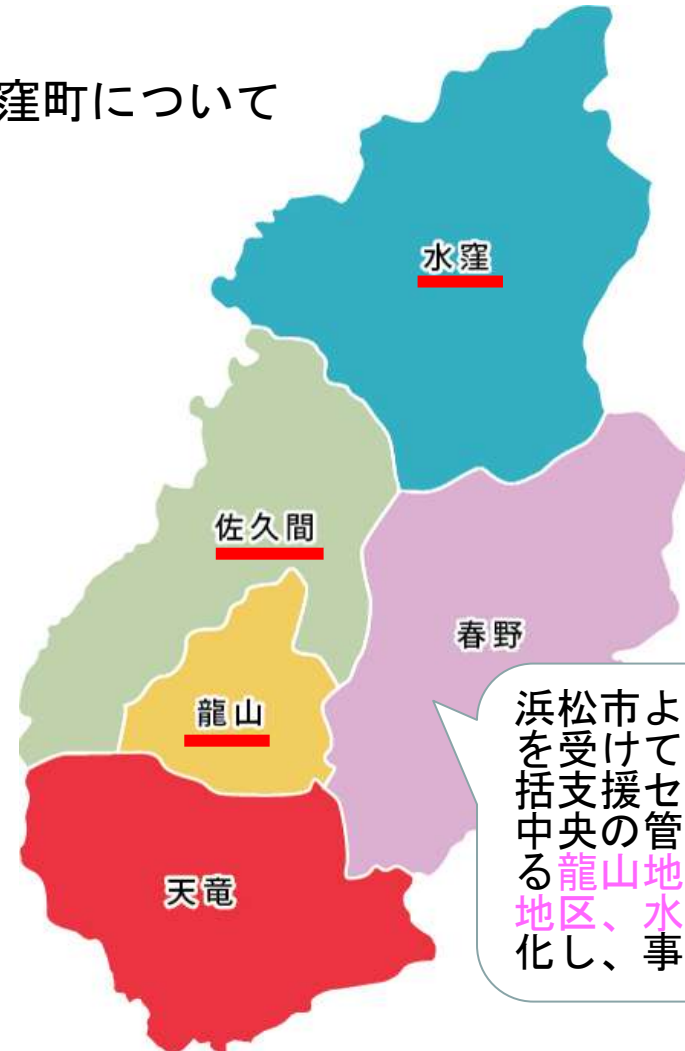
（事業の拠点範囲）

静岡県浜松市天竜区龍山町・佐久間町・水窪町について



（浜松市）
人口 800,866人
面積 1558.04km²

（天竜区）
人口 33,957人
⇒浜松市全体の
4.24%
面積 944 km²
⇒浜松市全体の
60.5%



浜松市より運営委託を受けている地域包括支援センター北遠中央の管轄範囲である龍山地区、佐久間地区、水窪地区に特化し、事業展開。

	龍山町	佐久間町	水窪町	浜松市全体
人口	886人	4,488人	2,614人	816,848人
世帯数	382	2,044	1,214	320,346
高齢化率	51.40%	50.70%	49.70%	22.60%

【水窪地区】

● みさくぼの里

（特養特別養護老人ホーム50床、ショートステイ10床の入所施設。その他デイサービス、ホームヘルプ、居宅介護支援事業を展開。）

歯科診療所 診療所 薬局
地域包括支援センター北遠中央水窪支所（サライト）
水窪

【佐久間地区】

● 浜松市国民健康保険佐久間病院
全60床（一般病床 36床、療養病床20床、感染症病床4床）有する総合病院

● さくまの里

（特別養護老人ホーム80床、ショートステイ20床の入所施設。その他、デイサービス、ホームヘルプ、訪問入浴、グループホーム、指定居宅介護支援事業、地域包括支援センター北遠中央（佐久間サライト）、高齢者生活福祉センターの事業展開。）

グループホーム
佐久間病院附属山香診療所
浜松市国民健康保険佐久間病院
さくまの里
佐久間

佐久間病院附属浦川診療所
デイサービス・ホームヘルプ

【龍山地区】

● 天竜厚生会

（デイサービス、ホームヘルプ、居宅介護支援事業、地域包括支援センター北遠中央）

天竜厚生会
歯科診療所 龍山診療所
龍山

春野

【天竜地区】

● 老人保健施設さいわい

（定員127名。北遠地域で最も北に位置する老人保健施設。デイ・ケアが併設。）

● 独立行政法人国立病院機構
天竜病院

全380床（一般病床330床（重症心身障害病床80床）、結核50床）有する総合病院。

天竜厚生会診療所
天竜厚生会第二診療所
天竜厚生会訪問看護ステーション
老人保健施設さいわい
独立行政法人国立病院機構天竜病院

【委員会の設置】

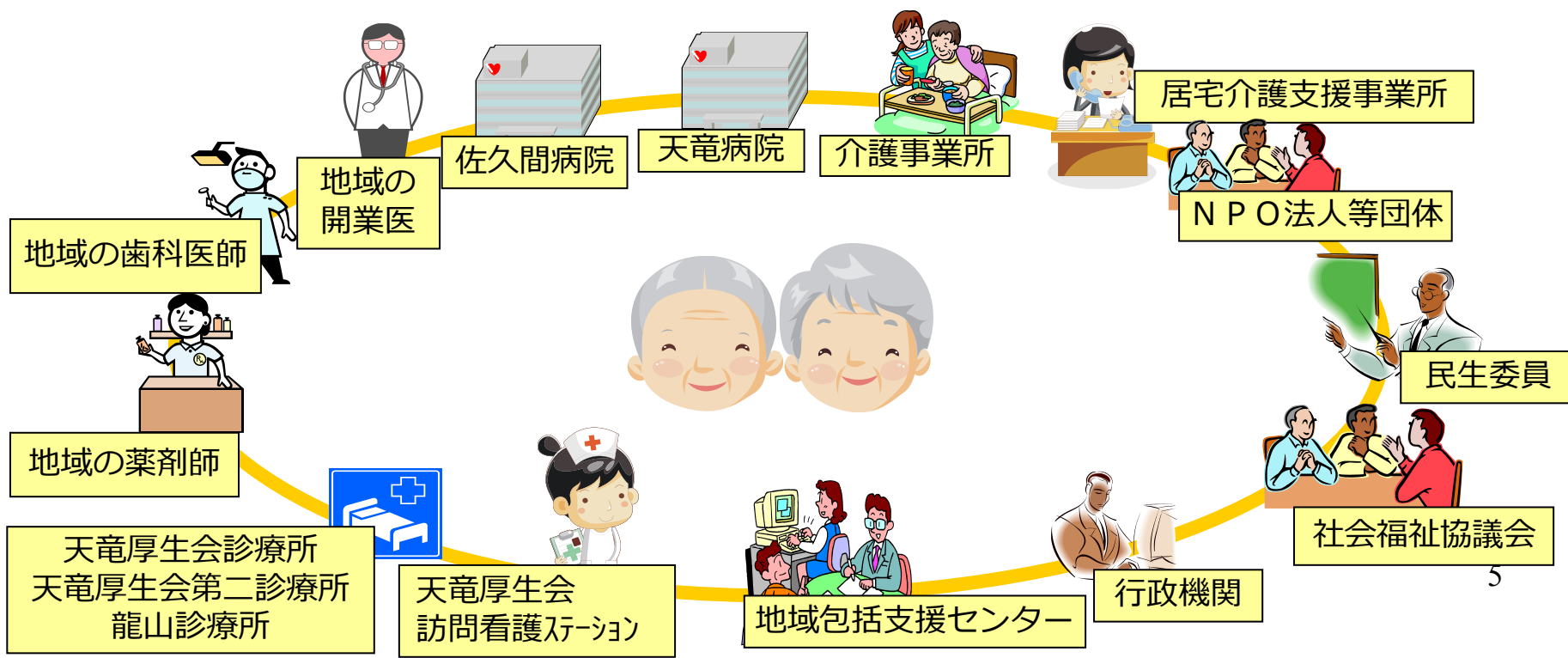
(構成機関)

- ・ 地元浜松市天竜区健康づくり課
長寿保険課 の代表者

- ・ 医療機関の代表者
- ・ 介護事業所の代表者

⇒平成24年9月 第一回開催。

平成25年3月 第二回開催。



①多職種連携の課題に対する解決策の抽出

1) 多職種合同カンファレンス開催

平成23年8月27日(土)

平成24年7月 8日(日)

【テーマ】

「医療と介護の連携上の課題」

北遠地域で安心して暮らしていくための支援として何が必要か考えてみましょう。～事例を通して～



2) 全体会開催

平成23年11月22日

3) 全体報告会開催

平成24年3月21日

平成25年3月20日

4) ワーキング活動(平成23年度)

年間7回開催

【検討内容】

①入退院時の書式検討、退院後の状況の情報伝達について

②地域医療連携パス(口腔衛生)

③介護を必要としている人の情報共有のあり方(インフォーマルサービスについて)

④医療機関等間での情報共有について

5) プロジェクト活動(平成24年度)

3つのプロジェクトに分かれ各3回開催

①ITによる医療介護連携

医療と介護の連携を促進するためにIT化を検討する。

②介護保険給付のデータ分析

介護保険給付のデータから北遠地域の実情や実態を数値的に分析し、検証する。その他、インフォーマルサービスの再検証、買い物支援のための情報整理・共有を行う。

③地域医療連携パス(口腔衛生)検証

昨年度より検討してきた地域医療連携パスの運用実績から、検証を行う。



②在宅医療従事者の負担軽減の支援

地域の在宅医療提供体制を構築すると同時に、チーム医療や多職種協働のための情報共有を図る取り組みを行う。

1) 医療・介護従事者間の情報共有

⇒OFAX送信時における連携書式

「北遠地域 医療・福祉相談用」を継続運用し

⇒O I Tによる医療・介護連携

地域の医師含む医療・介護従事者間でIT利用による情報共有が行えないか検討。しかし、北遠地域の特性を踏まえ、現在は必要に至らない結論となった。現在既に行われているような「顔の見える関係」による連携をより深めていく必要性を従事者間で共有した。

[illegible]

⇒〇ホームページの開設
北遠地域で行われている
当事業のホームページ開設。
連携している機関の情報
はじめ、活動内容等、情報
共有のひとつとして運用。

⇒○メーリングの継続運用

2) 医療連携体制

北遠地域は人的資源が十分ではなく、チーム医療そのものを構築することが難しい。各職種における守備範囲も広い。

(平成23年11月22日開催 全体会からの意見より)

- ・水窪地域については、内科開業医院が2件のみ。
医師不足により地域におけるチーム医療そのものを構築することは困難
- ・訪問看護ステーション自体がないため、地域包括支援センターの業務内容の多様化。
(看護師の内服管理や受診支援、夜間のコールへの対応)

など . . .

⇒それぞれの機関・事業所・行政などが連携して、職種や地域を超えて業務を補完出来る体制を検討していく必要がある。

⇒○近隣の医療機関による佐久間・水窪地区のレスパイト入院機能

○天童厚生会訪問看護ステーションによる佐久間・水窪地区への訪問開始。

(片道：1時間、約50kmの道のり)

③効率的な医療提供のための多職種連携

地域の医療・介護資源の機能を把握し、医療・介護にまたがる支援を包括的かつ継続的に提供
 するよう関係機関の調整を行う。

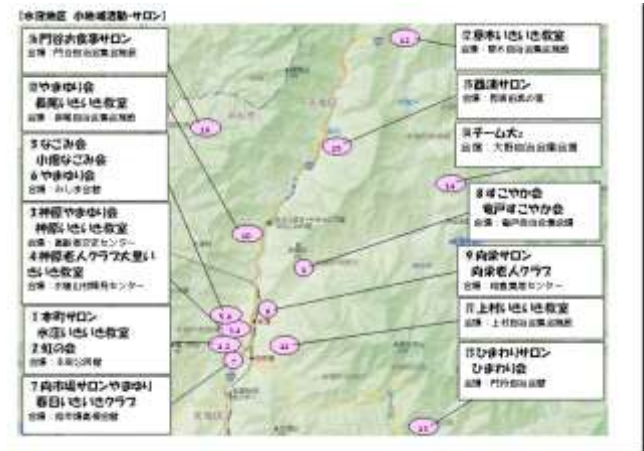
1) 提供される医療やケアの質・量に関する実態把握、課題解決に向けた活動

○地域のインフォーマルサービス再検証

⇒新たに冊子化

○買い物支援に関する情報の整理

○地域の介護保険給付状況の実態把握



2) 地域医療連携パス（口腔衛生）の運用と検証

昨年度より検討してきた地域医療連携パスの運用実績から検証を行う。⇒新たに冊子化

④在宅医療に関する地域住民への普及啓発

1) 講演会開催

平成25年2月23日(土)

「地域に寄りそ医20年

～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～」

講師：名田庄診療所 所長 中村伸一先生

2) シンポジウム開催

○平成24年10月6日(土)

「～北遠地域の在宅医療における より良い口腔ケアの推進に向けて～」

パネリスト：地域の歯科医師3名、病院内科医師、保健師、
特養看護師、地域包括支援センターケアマネジャー

○平成24年12月9日(日)

「地域で元気に暮らし続けるための支え合い

～地域、遠方に暮らす家族、近隣住民と共に～」

パネリスト：地域の医師、病院保健師、NPO法人職員、
民生委員、遠方にいるご家族

⑤在宅医療に従事する人材育成

1) 都道府県リーダー研修参加

⇒10月当会診療所医師が参加。

2) 医療・介護従事者向け研修開催

平成24年11月27日(火)

「認知症の医学的理解」

天竜厚生会第二診療所 所長 永山建次先生

